

合同入学式で式辞を述べる石田学長

第一体育館



学院大・学院短大で合同入学式

平成十七年度金沢学院大学大学院、金沢学院短期大学の合同入学式は四月七日、第一体育館で挙行され、新しく設置された大学院博士後期課程の入学者四人をはじめ合わせて六百二十九人が新たな学生生活を送りだしました。同日は、新年度から校名が変更された金沢学院東高校でも改築間もない新体育館で入学式が行われ、二百九十八人が高校生活への期待に胸を膨らませました。

行動に責任と自覚を

大学・短大の入学式では、入学生を代表して石川泉さん（文学部国際文化学科）と外村亜子さん（食物栄養学科）がそれぞれ「自分の行動に責任と自覚を持ち、自分たちの力で未来を切り開きたい」「今日の感激を忘れない」「勉強や部活動に励み、学生の自分を尽くす」と宣誓しました。

石田寛人大学・短大学長は式辞で、社会に生きる基本はルールの遵守、人間関係の基本は挨拶、学ぶことの基本は訓練の積み重ねである」と述べました。

飛田秀一理事長は告辞で「人間は歩くデータベースである。豊かな知識や経験が詰まったデータベースの方が様々な困難にぶつかっても対処できる」と説きました。石野宇四造大学後援会長、大間泰治短大後援会長が祝辞を送りました。

「夢」の実現に努力

東高校に298人 入学



入学生を代表して宣誓する片山君 = 金沢学院東高校体育館

金沢学院東高校の入学式では、石田毅士郎校長が式辞で建学の精神である「愛と理性」の教育方針に触れ、たうえて、「挨拶ができ、規律ある行動ができる人間」「目標をかげて努力する人間」になると激励しました。

飛田秀一理事長は告辞で「相手の目を見て話をしよう」と述べ、相手の目を見て仕草を観察しなければ本当の気持ちは分ならず、自分の考えも効果的に伝わらないと強調しました。来賓の吉本史宏後援会長の祝辞に続いて、新入生代

表の片山忠成君が「夢の実現に努力したい」と宣誓しました。在校生の代表が、校歌と応援歌「われら若鷲」を披露しました。

第六十一回現代美術展に金沢学院大学美術文化学部と美術文化専攻科から十八人が応募し、十人が入選しました。教員も二人が応募してともに入選（うち一人は佳作に入賞）しました。現代美術展は十七日まで

現代美術展に学生10人入選

岩永さん初入選

第九十一回光風会展には、本学美術文化学部卒業生（現専攻科生）の岩永京子さんが初入選しました。太佐寿一郎助教授が会員出品しています。光風会展金沢展は六月二十四日から二十八日まで、金沢市の県立美術館で開かれます。

野中さん初入選

日本新工藝展第二十七回日本新工藝展には本学美術文化学部卒業生（現専攻科生）の野中彩さんが初入選しました。羽場文彦助手が一般入選しました。日本新工藝石川会展は七月十四日から県立美術館で開かれます。

発行・広報室